

第7回  
環境カウンセラー環境保全活動表彰  
受賞者活動報告書



# CONTENTS

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1

## 環境大臣賞

市民部門：市毛 良枝（東京都）・・・・・・・・P 2

事業者部門：仁保 めぐみ（兵庫県）・・・・・・・・P 4

## 脱炭素社会貢献賞

市民部門：佐藤 ミヤ子（千葉県）・・・・・・・・P 6

事業者部門：白井 恵次（山口県）・・・・・・・・P 8

## 循環型社会貢献賞

市民部門：大塚 栄次（岡山県）・・・・・・・・P10

事業者部門：田中 勇次（和歌山県）・・・・・・・・P12

## 自然共生社会貢献賞

市民部門：内藤 定芳（埼玉県）・・・・・・・・P14

事業者部門：鈴木 順一朗（千葉県）・・・・・・・・P16

## 地域特別貢献賞

市民部門：飯田 貴也（東京都）・・・・・・・・P18

事業者部門：(特非)Nature Center Risen（東京都）・・・ P20

はじめに

環境カウンセラーは、「環境カウンセラー登録制度実施規程」(平成8年環境庁告示第54号)にもとづき、環境省が実施している登録制度です。

長年にわたって市民活動や企業・団体の事業活動を通じて環境保全に関する取り組みに従事し、豊富な経験や専門知識を持つなど一定の要件を備える方で、環境保全活動の推進に資する意欲の有る方を毎年公募し、申請にもとづいて論文審査及び面接審査を行い、所定の基準を満たした方を「環境カウンセラー」として認定・登録しているものです。

環境省では、平成30年度から環境カウンセラーの社会的な認知向上及び環境カウンセリング等環境保全活動の意欲を増進する等を目的として、環境カウンセラーとして実施又は関与する優れた環境保全活動を行っている、環境カウンセラー及び環境カウンセラーを構成員とする団体に対して環境大臣賞等を授与する環境カウンセラー表彰を実施しています。

第7回環境カウンセラー環境保全活動表彰受賞者が決定したので紹介します。

令和7年2月1日



**受賞理由：**登山をきっかけに環境保全活動を始め、トレッキング、自然観察会の運営に参加するとともに、関東地方の里山や全国の山々を紹介する本を出版して自然環境保全を発信した。  
また、テレビ・ラジオ番組を通じて自然環境の保全や廃棄物削減、省エネルギー対策など地球温暖化問題への取組みを広く呼びかけ、あわせて環境カウンセラー登録制度の知名度向上に多大な貢献をした。

### プロフィール

俳優 静岡県生まれ

文学座附属演劇研究所、俳優小劇場養成所を経て1971年、ドラマ「冬の華」でデビュー、近年はドラマ「釣りバカ日誌」「越路吹雪物語」、映画「ラーゲリより愛を込めて」「明日を綴る写真館」、舞台「百日紅、午後四時」「あなたがいたから～わたしの越路吹雪～」、NHK「ラジオ深夜便」などに幅広く出演するとともに講演会も実施。登山には40歳から本格的に取り組み、キリマンジャロにも登頂した。法務省の篤志面接委員としても活動。



キリマンジャロ登頂（市毛良枝さん提供）

1998年、環境カウンセラー登録、NPO 法人日本トレッキング協会理事  
**活動のきっかけ**

知人に誘われて登山・山歩きに参加し、日本の自然の素晴らしさに感動。この恵まれた自然環境に親しみ、貴重な動植物を保全するために、ささやかながら市民の皆様呼び掛けて、自然とふれあうことをすすめています。

### これまでの活動

青森放送・FM 青森で環境・エネルギー番組を10年間担当。「エネルギーサロン」のパーソナリティとして地球温暖化

問題に向き合いエネルギーと環境とのかかわりを扱いました。番組には環境省や経済産業省・資源エネルギー庁の方々がゲスト出演され、インタビューで課題や対策をお聞きして視聴者の皆様に分かりやすく伝えるように尽力。番組に出演された環境省の方から環境カウンセラー登録制度が始まったというお話を伺い、同時に誘われて環境カウンセラーに応募したのが始まりです。其の後も、機会を見つけて自然環境の保全や廃棄物削減・リサイクル、省エネルギーなど取り組みの必要性を発信しています。

### 自然とのふれあい

日本トレッキング協会など都内の自然観察グループに参加して登山や山麗のトレッキング、自然観察会でのネイチャーゲームを企画。全国各地の山々を訪たり、自然観察会の運営に携わって来たほか、時間が許せる時に一人で野山の散策をして地域の素晴らしさを発見。広く登山やトレッキングへの参加を呼び掛けています。



初登山（1990年9月）（市毛良枝さん提供）



ライチョウ (市毛良枝さん提供)

多年、登山やトレッキングで自然に親しむ活動を継続し、観察した結果を取りまとめて数冊の本を出版。全国の市民の皆さんに自然とのふれあいを推奨しています。

※著書



「山なんて嫌いだった」 (山と溪谷社、1999年)



一般市民の方々が身近な自然環境にふれあえるように関東地方、首都圏近郊の里山を選定して21コースのガイドブックに取りまとめました。



「市毛良枝の里に発見伝、関東近郊の里山21コース徹底ガイド」 (講談社、2003年)

2004年頃、母の介護で環境カウンセラーとしての活動を一時休止していましたが、身近な山歩きをすすめるため2024年書籍を出版しました。



「73才、ひとり楽しむ山歩き」 (KADOKAWA、2024年)

NHKラジオ番組「石丸謙二郎の山カフェ」出演時、環境カウンセラーとして活動を紹介するなど、テレビ・ラジオ等の取材時には、山や自然の豊かさ楽しさを伝え、少しでも多くの市民が自然・緑に接して環境保全に取り組みを始めるよう呼び掛けて来ました。



6月9日に開催された「みちのく潮風トレイル全線開通記念シンポジウム」の基調講演で登壇した市毛さん (環境省提供)

さまざまな制約がある中で、今後もできる範囲で活動を継続したいと思っています。



環境大臣賞（事業者部門）  
兵庫県

仁保 めぐみ（にほ めぐみ）



受賞理由：環境カウンセラー両部門登録。廃棄物処理事業の経営者としての経験と幅広い知識をもとに尼崎市、西宮市と連携して大学等での環境教育や市民・事業者へ環境保全活動の普及啓発に尽力するとともに、福井県・鳥取県の廃棄物削減アドバイザーとして企業や病院、旅館等のコンサルティング業務を担当している。他にも事業者や市民などを対象とした数多くのセミナーでの講演活動等、様々な分野で活躍している。環境カウンセラー会ひょうご、環境カウンセラー全国連合会にて環境カウンセラー制度の充実に鋭意努める。

### プロフィール

兵庫県宝塚生まれ、現 兵庫県尼崎市在住  
2008年 環境カウンセラー登録

主な専門分野：廃棄物全般

NPO 法人環境カウンセラー会ひょうご理事長

NPO 法人環境カウンセラー全国連合会常務理事  
有限会社エビオ（一般貨物自動車運送業、産業  
廃棄物処理業、利用運送事業、金属くず商、古  
物商）代表取締役社長

WE Connect International 女性経営者国際認証

四国八十八か所霊場公認 大先達・調理師

産業カウンセラー・運行管理者（貨物/旅客）等

### 私にとっての「環境カウンセラー」

私が社長に就任した頃、まだまだ廃棄物業界は男性主体の業界で、いくら勉強を重ねても

「女性のあなたに何ができるのか？」そんな言葉もありました。顧客は大手の会社ばかりであり、私のせいで信用を落とすようなことがあってはならない、従業員を守らなければならないならば「第三者認証」が必要と感じ、どうせなら環境省のお墨付きである「環境カウンセラー」を取得したいと思いました。それまで地元のPTA会長を永年務めており（尼崎市PTA会長永年功労賞受賞）、地域や学校での環境に関するイベントを企画・実施していた経験もあったので、事業者部門だけでなく、市民部門にもチャレンジ。奇跡的にも両部門を同時に取得することができました。初めて名刺に「環境省登録環境カウンセラー」と印刷した時の嬉しさは今でも覚えています。取引先からも「これ何？」と聞かれるたびに「環境大臣に認めてもらった環境のプロフェッショナルです」と応答。信用も守られました。

環境カウンセラーに合格してすぐ、当時の環境カウンセラー会ひょうごの理事長から協会への入会をすすめられ、そのまま入会。HPが作れるところが評価されて「広報担当理事」に就

任、全国連合会や地方で行われていた研修など進んで参加し、他府県の環境カウンセラーとも交流を深めていきました。

環境カウンセラーの特徴として、「定年がない」「維持・更新にかかる費用がいらぬ」「研鑽できる」がありますが、一番の魅力は「横つながり」だと思っています。全国にいる専門家と知り合うことによって、自身が抱える環境課題が解決するだけでなく、情報交換また、活動のお声がけをいただけることにつながるからです。自分のことを他の人に知っていただける機会が多いほど、活躍の場も生まれます。そう思うと、まだ協（議）会に入られていない環境カウンセラーは、ぜひともどこかの協議会に入会していただきたい思いがあります。



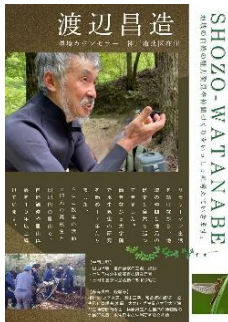
会社卒にもかかわらず、終始「環境カウンセラーの宣伝」に努めた地元のラジオ出演（2024.06）

### 私にとっての「環境カウンセラー会ひょうご」

私が入会した当時は130名を超える会員がいましたが、ほとんどの方がエコアクション21の活動に携わっていたため、中心人物であった理事長の逝去により、その活動が継続できなくなったことで、会員がみるみるうちに減少。私が理事長に就任した時には数える程度の会員。

「年会費を5,000円ももらっているのだから会員にメリットがある会にしたい」と試行錯誤した結果、出た答えその①「かっこいいポスターで会員を宣伝」=オンラインソフトCanvaを

使って作成、活動展に掲示したところ、来場者の関心をひき、「相談したい」「来てもらいたい」など、次につながる活動が次々と寄せられ、広報のありかた、手法を実感しました。



「ひょうごの会員さん  
「かっこいいボスター」」

出た答えその②「月例オンライン勉強会の開催」＝会員やゲストが講師となり、会員だけでなく、一般・学生も参加OK。気軽なコミュニティとして参加いただいています。

(録画・編集したものは一部 YouTube で公開)

協議会もまだまだこれからですが大切な仲間。「楽しく活動する」ことを考えていきたいです



特に今、尼崎市から依頼を受けて市内の全中学校を対象にしたSDGs教育（私の場合はSDGs 12）では、一校あたり2日に分けて1時間＋2時間行うことから、生徒が退屈しないような資料をいかに作るか（話題を豊富に）、また、廃棄物の現状と課題として「不法投棄」を取り上げ、「原因探求、社会背景、自分だったらどうするか？」を考えてもらうことで、さらなる関心とこれからの環境課題を自分のことと思ってもらえるよう工夫しています。



企業に対する環境教育やコンサルティング活動では、知識に加えて、本業で得た「現場力」が最大に発揮されるため、その企業にとって「役にたつ話」＝「やさしく学べる廃棄物処理法」「廃棄物から有価物への転換」「埋立からリサイクルへ」「処理費用削減」「環境経営のヒント」などが喜ばれています。

福井県、鳥取県の「廃棄物削減アドバイザー」でも「頼りになる環境カウンセラーでありたい」と日々精進しています。

### 私にとっての「環境教育」

私は常に聴講者が「興味をもつ」「理解（実感）する」「ためになる」「誰かに話したくなる」そんな環境教育を念頭において準備・実施しています。そのための仕掛けや教材となるネタは常に探し、アイテムを自作することを惜しみません。最近では「プラ新法（プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律）」の講演で、プラスチックが世の中に出回るきっかけを聴講者に実感してもらいたく、「だっこちゃん」を手作りし、会場に連れていったところ、大ウケ。「理解が深まった」と大盛況でした。



その他、環境の絵本を動画にして（作家さんにも了承を得る）音楽やテロップをつけ、映画風に流したり、説明資料を紙芝居風にしたり、海洋プラスチック問題や食品廃棄量など、誰しもが実感できる小道具を作ったりと「伝え方の工夫」を欠かさないようにしています。

### 私にとっての「これから」

環境カウンセラー全国連合会のお役目として、申請者対応、新人教育、研修、パンフレット作成などいろいろ経験させていただいていると「もっとこの制度を盛り上げていきたい」といつも思います。たくさんの方に「環境カウンセラー」になっていただき、すでに環境カウンセラーでおられる方々とともに、そのお力を世の中に役立てていただきたい。そのために微力ながら貢献していきたいと思っています。また、自身の活動では、廃棄物のことで困っている企業、自治体の課題を解決に導けるよう、さらに研鑽を積んで、知識を研ぎ澄まし、対応したいと思っています。

最後になりましたが、このような光栄な賞を与えていただいた環境省はじめ、関係者みなさまに心から御礼申し上げます。

佐藤 ミヤ子（さとう みやこ）

千葉県



**表彰理由：**環境カウンセラー登録とともに環境カウンセラー千葉県協議会に入会し、地球温暖化問題に取り組んでいる。特に、家庭での省エネルギー対策を進めるために千葉市と連携し、温暖化対策地域協議会で「うちエコ診断」に注力。コロナ禍にあってもオンライン診断を推進した。また、県協議会の副理事長や環境学習センター長として多年、環境保全活動リーダーの育成に努めるとともに、地方公共団体等の研修会講師や委員を務めている。

プロフィール：

2009年友達に背中を押され「環境って何？」という非常に曖昧な動機で飛び込んだこの世界。しかし、飛び込んだ限りは何かを得たいとの生来の性格が頭を擡げ、「エコリーダー養成講座」を始め種々の講座の受講、更に「地域カーボン・カウンセラー養成講座（内閣府）」などを受講しました。それ以降「千葉県地球温暖化防止活動推進員」「エコ検定」「うちエコ診断員」そして「うちエコ診断士」の認定を受け、少しずつ手応えを感じつつある自分がおりました。また、2010年7月～2021年6月まで「千葉市環境審議会委員」に市民代表として参加、大変有意義な機会と時間を頂きました。

### 1.うちエコ実施機関

環境省が家庭エコ診断制度創設までの3年に亘る準備期間中に、うちエコ相談員として多くの診断に携わってきました。

そこで、環境省の「実施支援システム」の持つ定量化と見える化が、各家庭からの二酸化炭素削減の取り組みにとっても有効であると感じJCCCAの部長に相談。私自身の所属団体での立ち上げを考えてみることになり、会員の協力が必要書類を作成し提出しました。

2016年6月環境省の認定を受け、「うちエコ診断実施機関E C千葉ネット」誕生。

- 1) 千葉県全域のより多くのご家庭で、削減数値を実感し楽しんでいただきながらより効果的な二酸化炭素削減と光熱費節約の実現を目指してのスタートでした。

- 2) ガイドライン、支援システムマニュアル、実施要綱、各種登録規程等々との格闘の日々、若い時分30代女性と机を並べて取得した「2級表計算技士（OA機器操作）」を思い出しながらパソコンに向かい、要所要所でJCCCAの担当に相談しながら一つずつクリアする毎日でした。

立ち上げから3年目、環境省からの補助金中止の衝撃が実施機関を直撃でした。

- 3) その時真っ先に立ち上がって窮地を救って下さったのは、千葉市地球温暖化対策地域協議会（千葉市脱炭素推進課旧温暖化対策室長）でした。続いて、会員の地元自治体等への働きかけによる理解と協力は大きな励みと支えでした。

千葉市にはそれ以来現在に至るまで支援を続けていただいております。

- 4) 受診家庭の個人情報を一手に預かるこ支援システムに、創設以来今日に至るまで携わってきました。その間、大きな苦情をいただくことなく今日を迎えることが出来たのは、大所高所からその時々の判断をいただいた実施責任者、そして、診断士仲間、現場を預かる自身の3者それぞれの努力と協力の成果にほかなりません、誇りです。

- 5) 世の中は急速に変化しています、受診者の意識も変化しています。それらの変化に対応すべく毎年フォローアップ研修で



実施機関も診断士もスキルアップを図っています。

- 6) また、コロナ禍を機に千葉市からの要請もあり、それまでの対面診断に加えオンライン診断を可能にし、更に、スマホでの受診にもお応えできるよう実施機関独自のマニュアルを作成し、実施体制を整え実施しております。
- 7) なお、現在は、多様化する受診者のニーズに応える確かな診断をするため、診断士の補充ができる体制を取っています。
- 8) 受診者の中には“私の家ではもう削減できることはやっているから～”などと言っておられた受診者が、途中から身を乗り出して、“ではこれをやってみたらどうなるの！”などと積極的に参加し、“わかった、やってみる”と笑顔で帰られる姿に、満足感と充実感をいただいております。実は、これが持続できた最大の要因ではないかとさえ思っています。

## 2. 地方自治体等への講師活動

- 1) 取り組みへの心構え：
  - ・参加者自身の気付きを促し、受講後に自発的、主体的、そして、持続性のある活動へと繋がっていく機会になってくれることを目標にグループ学習を取り入れ、参加者が自ら考え意見を言い合える時間にと考え実施しています。私自身の場合、準備に全体の8割以上の時間をかけています。
  - ・更に準備した資料の中からどれを、どの順序で、どの表現を使って伝えるかにも腐心するのが私流です。
  - ・資料は参加者が考えるためのツールです。
  - ・当日は、参加者一人一人の顔と向き合って問題を共有しながら進めることが出来るよう準備に時間と工夫を凝らしています。

- ・所要時間は2時間殆んどですが、長かった～！と言われることが無くなりました。居眠りする人も無くなりました、問題を共有し一緒に考え合っている時間は楽しいです。
- ・殆どがリピートで指名依頼をいただけるようになったことは一つの私自身の評価に当たるとは思わないかと考えております。

- 2) 実施状況：(延 41 件)：2012 年～現在まで親子講座 (4 件)、子供セミナー (4 件) 学校関連 2 件) 省エネ関連講座 (17 件)、地球温暖化関連 (10 件)。2025 年も 4 件のリピート等の講座依頼 (予約) があります。

- 3) 取組んだテーマ：  
食品ロス関連、地球温暖化関連、海洋関連 (プラスチックごみ, サンゴ礁、生物多様性)



成田市生涯大学院



コープ親子講座

## 3. 相互研修の場〈みんなのひろば〉の企画

- 1) 環境学習センターでは、会員それぞれが学んだこと感じている事等を自由に発表し、出席者全員で共有し意見を出し合うスキルアップの場を設けています。
- 2) 一見環境に関係なさそうな事でも聞くことで幅が広がり、話の接ぎ穂になったことは何度も経験しています。  
環境問題は直接間接繋がりが合っています。コロナ禍や高齢化が進む中、このような機会は非常に大事だと思い仲間と共に継続してきました。
- 3) そうした中、昨年 6 月には環境学習センターの運営を若手にバトン渡し出来たことは大きな所産でした。 以上

白井 恵次（うすい けいじ）

山口県



**表彰理由：**地球温暖化対策の一環として、山口県沿岸の磯焼けを回復し、ブルーカーボンを固定する新しい海藻の養殖方法開発に着手した。開発には、火力発電所から排出されるフライアッシュ等産業廃棄物を有効活用し、バーク堆肥を練り込んだ多孔質ブロックを製造。高い技術力を有する県内製造会社の鋳鉄の棒で囲い、組み立てて海藻に陸域の栄養素を供給する事で漁礁としての機能も確認されている。これらの開発は、環境カウンセラーや大学名誉教授としての経験や人脈を活かしつつ、地元のNPOや漁業、水産会社、大学等と連携して取組んだ。

### 自己紹介

鳥取大学大学院連合農学研究科博士後期課程修了 PhD. 宇部フロンティア大学名誉教授。マニトバ州立大学大学院（Canada）客員研究員。学校法人香川学園が運営する宇部フロンティア大学人間社会学部や地域研究所教授を経て同学園が付置する宇部環境技術センター所長、同学園理事を歴任。環境省登録環境カウンセラー（事業者・市民両部門）、山口県環境影響評価技術審査会委員、山口県環境アドバイザー、山口県環境計量証明事業協会会長、やまぐちエコ市場オフセット・クレジット認証審査会会長等。現在は、特定非営利活動法人環境共生機構理事長として環境教育、環境マネジメントシステム構築支援や環境保全活動に取り組んでいる。また、海の杜研究所を設立し、衰退の一途を辿る日本の水産業の復興とブルーカーボン固定促進活動を行っている。

### これまでの取組

大学教員時代は、湖沼や内湾の富栄養化現象改善に関する研究活動が主たるものであったが、その後は、環境マネジメントシステム構築（ISO14000's およびエコアクション21）に関して審査する立場で携わってきた。最近、一転して環境化学者としての知識を水産分野に反映させることを目的に研究所を設立。これまで、ブルーカーボン固定に必要な海藻への栄養源供給素材と魚礁にも藻礁にもなる鋳鉄棒の開発を行った。これは電力会社から再利用の依頼があったフライアッシュを基材にバーク堆肥等を混入後

に生分解性があるポリ乳酸（PLA）を特殊な発泡剤で発泡させたバインダーで結着させ、窒素、リンおよび二価鉄-フルボ酸錯体を溶出する多孔質媒体を作成した（写真1）。写真2に示した魚礁兼藻礁も鋳鉄会社や建設会社の協力で1個25kgの立方体の鋳鉄ブロックを製作し、レゴブロックのように海底の岩礁地形に沿って連結・埋設する方法を開発し、鋳鉄棒の中に栄養源溶出体を設置して海底に埋設した結果、海藻は様々な種類が増えて行くことが判明した。



写真1 二価鉄-フルボ酸錯体溶出ブロック（左）およびPLA(ポリ乳酸) 発泡バインダー(右)

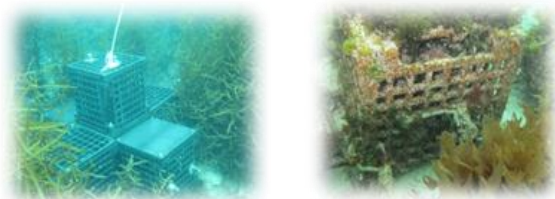


写真2 鋳鉄で作製した魚礁した（左）および多孔質溶出ブロック上への海藻の成長(右)

二価鉄-フルボ酸錯体の形成確認に関しては、これまで報告が無かったため、嫌気性条件下で二価鉄を飽和吸着させた新しい反応型のゲルクロマトグラフィー法を開発して錯体の形成を確認し

た。詳細は、図1に示した錯体形成反応によって欠乏する鉄量で確認した。

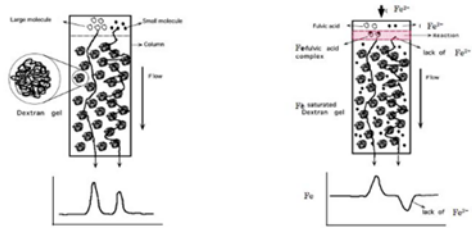


図1 二価鉄フルボ酸錯体同定のために開発した反応型ゲルクロマトグラフィー

### これからの取組

次に、光合成を行う海藻としてアカモクを選び、3Dプリンターを使用して生分解性ポリ乳酸を原料に図2の種苗チップを開発した。

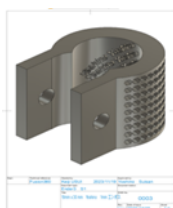


図2 ポリ乳酸製種苗用チップ



写真3 4ヶ月間冷蔵保存後のアカモクの幼体



写真4 海域に展開後5.5ヶ月のアカモクの成長

珪藻やイソコツブムシなどからの妨害回避のため、種苗チップを長期冷蔵保存するタイムラグ養殖技術を漁協と水産会社と共に開発し、収穫時期を4ヶ月ずらすことに成功した。この方法でアカモクは、写真4に示すまで成長した。近年は異常な海水温上昇（海藻が生長困難な29.5℃を超える海面水温）に見舞われ、今後は温度管理ができる陸上養殖技術の開発が必須となると考えている。

最近では、上記の活動を実行するために、適切な温度管理ができ、妨害生物がない陸上養殖のために必要な、安価で効率の良い水質浄化システムを開発している。それには「光触媒-紫外線照射装置」を用いるのが最良と考えるが、調べると光触媒を結着する最適なバインダーがなく、光触媒による水質浄化を謳っている多くは製造コストが高く、処理効率が低いことが分かった。そこで、光触媒を多孔質シリカ担体に結着させる新しい無機バインダーの選択、電気使用量が多い電気炉を使用しない焼成方法と共に、滞留時間が長く処理効率の高いスパイラル式の浄化システムを開発した。



写真5 マイクロ波キルンで焼成した光触媒粒

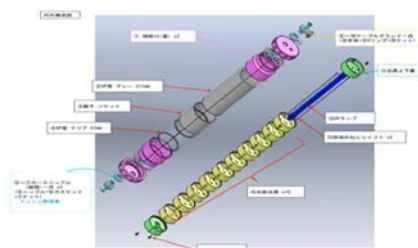


図3 新しく開発したスパイラル式光触媒-紫外線照射装置

具体的には、無機バインダーにペルオキシチタン酸およびアモルファスシリカ系バインダーを用い、マイクロ波キルンによる焼成方法を確立。写真5に示した光触媒粒を作成し、図3のスパイラル処理装置に充填後、紫外線を照射して水質を循環浄化するシステムを開発。この方法は、水中有機物を短時間に95%以上浄化する能力がある。



大塚 栄次（おおつか えいじ）

岡山県



**表彰理由:**環境カウンセラー協会をはじめ、環境カウンセラーのネットワークと連動して、食品製造、流通、消費の段階で排出される未利用食品をフードバンク活動に活用している。一例として、食品スーパーからデイリー食品を引き取って福祉施設や生活困窮者への配達などを実施した。また、地元里庄町の環境イベントに毎年出展している他、西日本豪雨災害復旧作業や森林の再生活動、環境教育など多岐にわたって環境保全活動に取り組んでいる。

### 自己紹介

私が活動を始めたのは、2003年自然環境保全について、環境学習リーダー研修が始まりである。その時に聞いた言葉今でも覚えており里山について。もともと田舎育ちの私に、ピンとこないように感じ取りました。人間と自然は、切っても切れないつながりがある。それぞれの生存のためや人間のためにも財産である。人間は働いて収入を得て生活を、里山森林保全は誰が管理していくかである。世界的に森林の減少により環境破壊、自然災害そして、地球環境問題、地球温暖化など私たちが出来るCO2削減に向けて、地域や子供たちが出来る森づくりには、森林インストラクター、森林



ガイドとしての資格も必要で活動において、けが、事故などには最大限の配慮が必要になります。絶えず支え合う力と目配りをして当たり前である。



森林の伐採



環境クイズ



出前講座

2008年には地球温暖化防止活動推進員となりそれと同時に、岡山西温暖化対策地域協議会も設立し、環境イベントや出前講座など環境保全活動などいろいろな体験学習は、様々なテーマを求められます。どのような良い活動でも地域や行政から認められることは大変である、こどもたちから高齢者に至るまで喜ん



で楽しく参加できるような企画、運営は他の活動団体との連携とつながりも大切であり。失敗は許せないことを肝に銘じて活動する側と支援される側との信頼関係により、毎年の定期活動を市町村における、環境活動をしております。2003年に環境カウンセラーとして市民部門に登録、同時に岡山環境カウンセラー協会のメンバーとして、先輩の活動には広い分野があり世のため、社会的責任を持って、ボランティア活動よりも企業としての仕事のように思いました。私もうかうかしておれないように感じ取りました、当活動団体は皆さんがよく勉強し行動は、先輩リーダーが快く受け入れ、環境カウンセラーとして専門活動であり、知識や経験者による環境アドバイザー指導者であることなど、素晴らしい団体、迷惑をかけないよう社会に役立つ貢献活動として、2018年には西日本豪雨のボランティア活動から能登半島にも、地域では防災士として災害の備え、食育は食品ロスについて、食べ残し売れ残り、期限が近いなど様々な理由で捨てられる食品ロス等、多額の費用

と廃棄物として燃やすことは、地球温暖化の原因に今、行っているフードバンク活動は、ごみの削減と社会に貢献福祉援助活動として、毎月定期的に回収しその日の配達は貧困家庭、児童福祉施設子ども食堂、社会福祉協議会に在庫品など保存できるもの、私の長男の家が空き家のため冷蔵庫、冷凍庫が10台あり食品の衛生には十分気を配って管理しています。



西日本災害活動



食品の回収



食品の回収

最後になりますが、高齢化社会になって時代の流れかもしれませんが持続可能な社会の実現に向けて、自分を高める力の向上と役立つ情報提供として、里庄町のパブリックコメントに食品ロス削減を提案し、環境意識の啓発や未来の世代に美しい地球を、受け継いでいくため様々な取り組みを推進していきます。

田中 勇次（たなか ゆうじ）



**表彰理由：**工業高等専門学校特命教授として研修講師や環境教育を進めた他、産官学連携事業として紀州材の利活用プログラム開発、特産物である梅の加工技術の開発、減農薬有田みかん栽培や廃竹材パウダー利用等環境配慮型農業の情報発信をおこなっている。また、企業の環境経営指導や商工会議所のエキスパートとして中小企業に派遣され、騒音振動、水質、品質管理など様々な企業の環境課題解決支援に専門性を発揮している。

**自己紹介**

1969年 製鉄所入社して設備建設から環境対策に関わり、エネルギー管理士・技術士・環境カウンセラー・ISO 審査員等の資格を取得し、2000年から「技術コンビニ」WAKAとして独立。商工会議所エキスパート、府県技術専門家、環境アドバイザー、中小機構経営技術アドバイザー等の多様な立場で中小企業の環境課題の解決活動を展開しました。その間、高専の講師や特命教授として産官学連携事業や自家農園と企業の環境経営指導を展開しています。

**これまでの取り組み**

1998年に環境カウンセラー登録後も、高専の非常勤講師として機械設計、原動機、エネルギー工学、環境福祉工学等の講義、特命教授として人材バンクシステム構築と学校防災サブコーディネートをを行いました。特命教授時代には、紀州材の利活用プログラム等で過熱蒸気を使った産官学連携事業を木材業者と連携して実施しました。木材乾燥に、リグニンが抽出されて強度低下や廃水問題の課題に対して、リグニンを残したまま乾燥できる自然乾燥に近い乾燥や、梅を干さずに減塩梅のフルーティな梅漬けができる方法の特許を申請しました。その間、「トコトンやさしいコストダウンの本」を中心に10冊ほど共同執筆しました。



併行して、当時立上げ中の県知事が社長のISO 審査機関のメンバーに参加して、主任審査員として年間60社の審査や10数社のEA21審査を通じて環境カウンセラー（事業者部門）の力を発揮してきました。

同時に、エネルギー管理士で構成した「アタックメイト和歌山」を立上げ、県内での省エネ普及促進をしましたが、直近では、CNに向けて大阪技術振興協会の省エネ診断お助け隊の活動に参加しています。

**環境カウンセラーを「前面」にした取組**

環境カウンセラーとして、顧問先やコンサル先、EA21や商工会議所でも、SDGs17「パートナーシップ」を活かした活動に重点を置いています。

私の仕事先の中小企業は、廃棄物の削減、物流やエネルギーの効率化、地球温暖化の環境啓発の推進など 様々な課題があります。

地球温暖化を感じながら健康食確保のために自家農園を 12 年前に有田みかん山 2 反を購入し、米糠 EM 菌や竹パウダー利用、活性水利活用、公園や寺社の剪定屑の堆肥化、イノシシ除けの柵利用のえんどう豆・菊芋・弘法茶の栽培やビール缶の鳥よけ風車等々で環境配慮型農法を実践しています。



### 具体的な支援事業事例①

M社:世界各国で愛用される特殊車両部品・独創的なロッドエンドは、厳しい条件下でも最高のパフォーマンスを発揮。品質と耐久性を追求し、米国や EU を含む世界各地の市場で高い評価を受けており、品質管理と環境への配慮は、安心と信頼を提供し技術力と信頼性で、製品が提供されています。

精密な内面面取り寸法が測定できなかつたので、ドイツの航空機メーカーからの航空返品が大量の課題に測定器開発で解決させました。



### 具体的な支援事業事例②

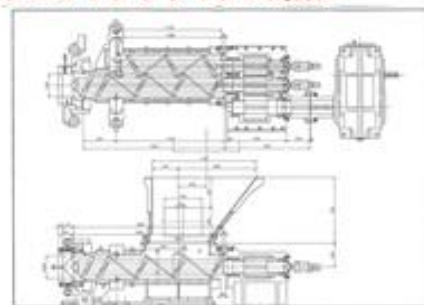
T化成:「リサイクル事業を通じて、地球環境に優しい社会創りへの貢献を目指します。」との社長の想いの側面的支援ができています。廃プラスチックの硬質化に対応するための高強度対策、カーボンフットプリントのための高強度破碎機など、モノづくり、再構築事業支援で解決しました。

### カーボンフットプリント

現状	再構築計画
プラスチック製造プロセスで発生する廃棄物の再利用率が低く、廃プラスチックとして最終処分コストが膨大に発生。環境負荷の削減と、再利用率の向上が課題となっている。現状では、再利用率が低い。製品に由来する CO2 の削減が課題となっている。	投入した廃プラスチックを原料にプラスチック製品を製造してきたが、自社でプラスチックの生産用材の供給を受けて、これまでリサイクルできない生産品として最終処分コストが膨大に発生。環境負荷の削減と、再利用率の向上が課題となっている。現状では、再利用率が低い。製品に由来する CO2 の削減が課題となっている。これら課題の解決と、再利用率の向上が課題となっている。現状では、再利用率が低い。製品に由来する CO2 の削減が課題となっている。



### 高強度プラスチックリサイクル対策



### 具体的な支援事業事例③

H 食品: EA21 認証登録審査時に、賞味期限切れ寸前でのリサイクルとして社会福祉協議会への寄付を提案や、長寿命化の推奨をしておいたが、寄付実施で廃棄物の大幅削減実現、「長期保存が可能な備蓄用ビーフカレー」を開発された。



### 具体的な支援事業事例④

S社:「産廃コンテナ bee」で、QRコード1つで誰でも「カンタン」・「らくらく」でコンテナの管理を行える特許取得のシステムとして事業再構築で支援しました。



### 今後に向けて

これまでの取り組みを加速させ、事業者や自治体等から SDG s アクションプランの作成や組織作りの依頼があれば、事業プロセス改善と専門技術を活かした新しい発想で、より困難な循環社会課題を解決する、寛恕の傍楽環境カウンセラー連携の絆を創出していく所存です。 深謝





内藤 定芳（ないとう さだよし）

埼玉県

**表彰理由：小中学校長として学校ビオトープを建設するなど、環境教育を推進した。広大な秩父多摩甲斐国立公園の優れた自然環境を保全するため、埼玉県環境カウンセラー協会役員や秩父市環境市民会議副会長、秩父ミュージックパーク公園インストラクター代表として、市民と行政の連携活動を促進している。また、生涯学習教材として秩父地方の動物・植物を解説するハンドブック等9冊を出版した。**

### 自己紹介

昭和42年3月熊本県立八代高等学校卒業  
 昭和43年4月東京理科大学理学部物理学科入学  
 同年4月理化学研究所宇宙線研究室入所  
 昭和47年4月学校法人矢板中央高等学校教諭  
 昭和50年4月秩父第二中学校教諭から秩父地区  
 中学校教諭16年、人間地区及び秩父地区教頭7  
 年、人間地区小・中学校長11年、平成22年度～  
 30年度高崎経済大学非常勤講師  
 平成6年NPO秩父の環境を考える会インターネ  
 ット部会長、地球環境部長、平成30年退会  
 平成10年度より市民部門環境カウンセラー  
 平成16年～現在まで埼玉県環境アドバイザー  
 以後上級環境再生医、秩父ミュージックパーク公園イ  
 ンストラクター代表、秩父市環境市民会議副会  
 長、埼玉環境カウンセラー協会監事

### これまでの取組み

子供の時の環境が人間の一生を大きく左右すると言われる。私の場合、八代市の球磨川下流域で出生し、結果的に水俣病が発生し未だその発生源が認定されない18歳の時点まで魚類回遊域の八代海が生活の場所であった。2歳時のドンコ釣りから始まり、ハゼ、コチ、カニ、エビを探して、時間のある限り潟土混じりの砂浜を歩いた。父親の楽しそうな刺身の食べっぷりを見るためである。その後水俣のみならず、対岸の天草地区まで水俣病の症例が観測されている。父はすでに亡くなったが、まさか私には水銀中毒の害は及ばないと思いたい。

### 教諭時代から教頭時代へ

埼玉県の新任教員になってから、研修の機会に恵まれた。「地質調査法研修会」「臨海研修会」「植物現地研修会」「地学研修会」などである。埼玉県の豊富な研修体制に支えられた。長瀬中時代には変成岩地域や段丘礫層の教材化に取組み、将来長瀬観光に訪れる客層への環境保

全啓発活動や、長瀬の貴重な環境を守っていく生徒の育成に尽力した。毎年卒業する3年生には岩畳を半日歩く体験会を行った。

まだ環境教育という言葉が語られる前の昭和50年代には、NHKの放送教育や埼玉県の県域放送「埼玉の自然」を多く活用し、生徒と川や山に出かけて自然環境保全の重大さを指導した。

### NPO法人等での活動

平成6年11月15日～20日、「全国環境教育フェア」が開催された。文部省・埼玉県・埼玉県教育委員会が主催し、県内92市町村から一名ずつの参加が求められた。中学校の理科畑の両神中学校教頭であった私が、両神村(当時)の代表として志木市、富士見市の会場に参加した。総合保養地域整備法(リゾート法)に基づいて1991年(平成3年)に秩父ミュージックパークが開園することになった。間もなく高校長を退職する後のNPO法人「秩父の環境を考える会」の会長は、これからの時代には秩父の環境保全の状況を世界中に発信する必要が欠かせないと考えていた。

私も発起人として会の設立に参加した。既に大学院派遣教員として上越市で学んでいたから、既にインターネットは経験していたが、まだ機が熟していないので、私がパソコン通信のシスオベになって、地元の環境問題から情報発信を開始した。秩父の山地や川、原で月に一日以上行われている会の活動を取材し、「秩父環境ネット」で発信した。しかし、情報活用の時代は中々到来せず、ついにはインターネットでのホームページにと転換した。数年後、私の役割も他に移らざるを得なくなった。

会では秩父ミュージックパークの公園インストラクター事業を、秩父郡市内の環境団体の参加を得て開始した。平成8年夏の部分日食観測会を皮切りに星空観測会を年に3回、春、夏、秋に行っているが、有志で行っている平成28年からの月一回



第四土曜日の観測会も、今年度から毎月第二、第四土曜日に拡大した。さいたま市、東京都、横須賀市など、遠方から毎回 10 数名の参加者がある。現在私がインタラクティブ事業全体の代表を務めている。動物、植物、キノコ、天体観測など年間 15 程の事業を行う。

### 小学校長時代

時代の進展と共に「生涯学習体系への移行」が求められるようになって、中曽根首相の時に「臨時教育審議会」(いわゆる臨教審)が昭和 60 年度から 62 年度にかけて 4 回の答申を行った。

学校教育では「総合的な学習」が新設されることになり、例示 4 項目と呼ばれる 国際理解、情報、環境、福祉・健康が示されたが、文部省からは何の情報提示もなく、指導書も十分とは言えなかった。学校で全て開発することになる。平成 10 年に入間市立藤沢南小学校長に新採用された。当時学級崩壊が各地で問題になり、子どもたちの自尊感情が不足していると考えられた。当校では情報と環境教育を重視した。9月にビオトープ池を作ることにした。



藤沢南小のビオトープ工事

三ツ星ベルト社から本格的な遮水シートを取り寄せ、荒木田土を上下に張り込んだ。穴掘りは教職員と PTA の有志が行ってくれた。サイサン環境保全基金から助成をお願いした。10 年 9 月に完成したビオトープ池は、4 ヶ月もの間濁っていたが、2 月に入る頃透明になり、わずかな緑の合間に、アカガエルが卵を産んだ。児童と共に喜んだ。



南小 春にはアカガエルが



加治東小のビオトープ作り

8 月末が環境カウンセラー募集の期限だったから市民部門に申込みをした。次年度から全国唯一の現職校長の環境カウンセラーになった。

日本環境協会の子供環境相談員として全国の子どもたちからの疑問にメールで答えた。環境カウンセラー市民部門審査会委員を 10 年勤めた。

児童が自慢できる学校作りを目指した。2ヘクタールの校内に、100 個の巣箱を作った。

卒業した児童 96 名が両親と卒業記念として巣箱をかけ、卒業後も見に来た。小学校と中学校の絆が出来た。新 6 年生が巣箱調査をして科学展に発表した。平成 11 年度に 11 個だったシジュウカラの巣が、12 年度には 13 個になった。狭い範囲での巣作りでは世界最高だろう。

マイクロソフト社のビルゲイツが日本に来て横浜で講演をした。その時の利益から 5000 万円を日本の学校に 1 校百万円ずつ寄贈することになり、先輩の学校と 3 校で 300 万円申請して受理された。当時の最速の 56 KB/秒の常時回線を 3 本引き、茨城県日立市の東小沢小学校、秩父郡大滝村の光岩小学校(当時)を Windows98 で動くテレビ会議で繋いだ。

児童はテレビ会議のために、ビオトープや巣箱の観察、近くの川でのパックテスト、SPM、紫外線の調査まで、学年ごとにグラフ化して相手校と情報交換した。職員も確実に力をつけた。

全ての活動の申請と会計報告まで全て校長である私が行い、教職員の仕事を増やさないようにした。前任校から始めていたホームページの作成、更新、メールでの PTA との事前準備などは全部校長が行った。

文部省が目標に掲げた「確かな学力」のうち、知識・技能は勿論、表現力、問題解決能力、発見する力など、多くのスキルの育成を図った。

### 今後に向けて

その後の大学での 9 年間に渡る講師の時期を含めて生涯学習に完全にシフトした。全国を調査してジオや歴史科学など、自費で講演会を開催して市民の知的好奇心に貢献している。4 月には PFAS と水の講演会を開催の予定である。



**表彰理由：環境教育を福井県全域で推進するための教材作成に取り組んでいる。平成 27 年から環境ふくい推進協議会で、福井県の特徴を活かした 50 項目の自然体験冊子作成を担当。県教育委員会等と調整を行って改訂を重ね、県下の小学校 1 年生全員を対象としてこれまでに約 65,000 冊を配布した。また、毎年「ふくいまるごと環境学び舎」事業でセミナーを企画・運営している。**

### 自己紹介とこれまでの取組み

1980 年代からドキュメンタリー番組制作ディレクターとして日本全国を取材し様々な体験をしてまいりました。そういった取材を続けているうちに「オゾン層破壊」が報道されるようになり、地球温暖化問題がクローズアップされることとなります。しかし、日本社会はバブル景気のご真ん中でありまして、大量生産大量消費へ走り続けているうちにバブルがはじけることとなります。これが 1990 年初頭まで。ここから IT 化が加速し 2000 年問題を経て、実感としてですが、この頃からようやく地球環境問題が大きく取り上げられるようになったと思います。この時期にフリーランスとなり環境省の様々な案件に関わることになりました。

エコツーリズム・国立公園・生物多様性・動物愛護・外来生物・鳥獣被害問題・ESD（環境教育）など多岐に渡り、広報用紙媒体製作や映像制作、そして、委員などを務めさせていただきました。そういった流れの中で、2009 年、事業者部門の環境カウンセラーとなりまして、その後も「環境」の世界で、日本各地、仕事を続けてきております。具体的な仕事のやり方ですが、「まずはリサーチ」⇒「プランニングや企画」⇒「具体的なアドバイス」⇒「制作物があればパンフレットや広報映像の製作等」⇒「広報方法のアドバイス」等を一人で行っています。（千葉県在住）

### 福井県とのご縁

今から 11 年前、2014 年（平成 26 年）に縁あって福井県環境政策課の業務である「ふくいのおいしい水」プロジェクトに関わることになり、福井県内 35 カ所の湧水を取材し冊子を作製致しました。



これがきっかけとなり、また、環境カウンセラーであったことから、福井県環境政策課が事務局を務める環境ふくい推進協議会のアドバイザーとして様々な内容に携わってくる中で「ふくいっ子に体験してほしい 50 の自然体験」を作ろうということになり県内全小学 1 年生に配布して 10 年が経ちました。当時、教育委員会との協力をとりつけコラボレーションできたことは大きな成果だと思っています。また、福井県と環境ふくい推進協議会の大きな理解があって、この企画が実現いたしました。



当初作成した冊子は、年々更新し、現在では「+地球温暖化を防ぐ10のできることを盛り込んでいます。



特に私が伝えたかったのは「自然体験もバランスよく」です。お母さんたちが子どもたちのお弁当を作るときに栄養表を見てバランスよく健康を考えます。自然体験も同じです。高山から里山を経て平地から海へつながる日本は、生態系の循環の中に私たち人間の生活があります。ですから自然体験もバランスよく原体験として記憶する必要がある、そう思っています。ですので、バランス表も冊子の中に入れ込みました。



## 刻々と変化する環境

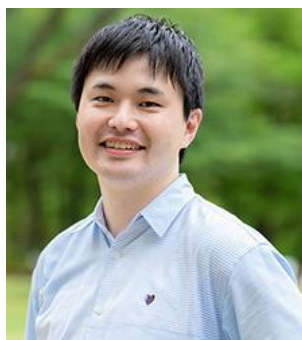
この冊子を作製した11年前は、まだまだ自然体験を推奨する傾向が強かったと感じています。こういった環境教育系のNPOも精力的に事業を拡大していこうと考えておりました。それまでもですが、現在を含め、全体的な傾向として自然体験や環境教育の分野のNPO等団体は経営が成り立たず、苦労の連続です。そのため、自治体や協議会が助成金などを使って応援するのですがなかなか安定しません。これは全国的な傾向であり、大きな課題であると思います。さらに、この10年はすさまじい勢いで環境への対応方法が変化しています。地球温暖化がますます進行する中、各国の足並みが揃わず困惑するCO2削減問題。クールビズを推奨しながらも熱中症対策でエアコンは必需品となっています。異常な暑さと記録の更新が続く中、コロナ禍という未経験の災害。そこに異常気象による世界的な自然災害。追い打ちをかけるように大きな地震の被害とこれから予測される大震災。さらには言わずもがなではありますが、今この時期に、戦争という人同士の殺し合いで苦しむ人々が現実にあります。ですから、一度、きちんと頭の中を整理し何から考えていけばいいのか「整え直す」のが「今」です。

## いつも私が忘れずにいたいと思うこと

自然界には「廃棄物」や「ゴミ」という考え方もシステムありません。すべてが循環する役目を持っています。ようやくそのことに気づいた人類は、自然に戻せるものを研究開発しています。

この地球で生きている限り、自然の上に人間の生活はあります。ですから「自然界にはゴミはない」ということを、未来を担う子どもたちに是非とも伝えていきたい、環境に関係する仕事をする者の責任として、環境カウンセラーとして、いろいろな手を尽くして活動してまいりたいと思っています。

飯田 貴也（いいだ たかや）



**表彰理由：**ユースの環境保全活動参加を促進する環境ネットワーク構築のためのコーディネートや、大学・学会等での講師として活動するかたわら、環境省、文部科学省の委員会に委員として参加し、環境教育・ESDの推進に貢献している。さらに、地域と学校の連携を図るため、68団体と協働して環境学習出前講座の運営や「新宿SDGsフェス」等都市公園でイベントを展開するなど、活躍している。

### 【プロフィール】

大学・大学院で「環境教育」「ESD（持続可能な開発のための教育）」「ワークショップデザイン」を学び、2012年からSOMPO環境財団の「CSOラーニング制度」を利用し、インターン生として新宿環境活動ネットへ。卒業後にそのまま就職し、事務局長を経て、2021年から代表理事に就任。持続可能な未来を担う人材育成や地域づくりに関わりながら、環境教育やESDをライフワークにすべく挑戦中。

「環境教育等推進専門家会議」委員（環境省）、「ESD活動支援企画運営委員会」委員（環境省・文部科学省）、「日中韓環境教育ネットワーク国内委員会」委員（環境省）、「GEOC（地球環境パートナーシッププラザ）運営委員会」委員（環境省・国際連合大学）、「こどもエコクラブアドバイザーボード」委員（公益財団法人日本環境協会）、「日本環境教育学会」理事・企画委員長など。

### 【活動事例①】

#### 「環境活動におけるユースの参画促進に向けて」

持続可能な社会を見据えた環境課題解決においては、様々なセクターの連携・協働が重要です。その一翼を担っているNPO等のソーシャルセクターに着目すると、多様化・成熟化している一方

NPO法人は2018年度に初めて総数が減少に転じてからその傾向が続いており、内閣府の調査によると約6割の団体が初代及び65歳以上の代表で、活動を牽引する次世代への世代交代や事業継承が課題となっています。私は大学・大学院で環境教育を学んだ後、新卒で環境NPOに入職、30歳のタイミングで約20年続いた地域団体の代表を引き継ぎました。

こうした自らのキャリアを活かし、環境活動を推進する団体の次世代人材育成や事業継承、環境活動に対するユースの参画促進を目指して、積極的な活動を行っています。具体的には、各地でユースの環境ネットワーク構築に向けたコーディネートに携わりながら、大学における授業や学会イベントへの登壇、各種委員会への参加など、様々な立場・媒体を通じて自らの経験を還元・発信してきました。



▲「若者環境フォーラム」（主催：世田谷区）





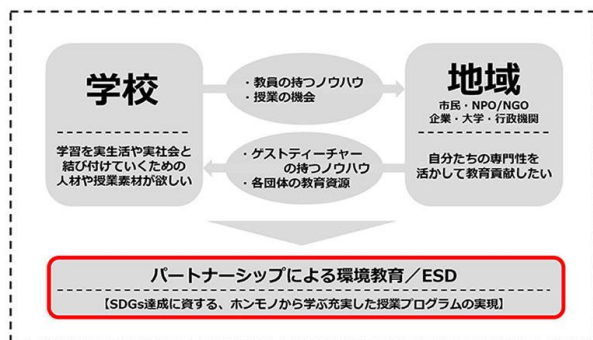
▲「むさしの Youth エコフォーラム」  
(主催：武蔵野市)

【活動事例②】

「地域と学校（施設）をつなぐ環境学習コーディネーターとして」

2020 年に環境省が学校教職員を対象に行った「環境教育等に関する意識調査」によると、約70%の教員が「地域・NPO・企業と連携すると、授業における学びの質が高くなった」と回答しているのに対し、「実際に協力・連携したことがある」という回答は39%にとどまり、“調整に時間や手間がかかる”“目的や期待することにズレがあった”といったコミュニケーションの課題が挙げられています。私は代表を務める新宿環境活動ネットの“環境学習コーディネーター”として、地域と学校をつなぎ、出前授業の実施に向けたマッチング及び伴奏支援を行うことで、質の高い環境学習機会の実現を図っています。具体的には、68 のパートナー団体と連携・協働しながら、

小・中学校における出前授業や自治体から受託している社会教育施設や都市公園における環境講座等を年間80件ほどコーディネートしています。



▲環境学習コーディネーターの役割  
(イメージ)



▲「新宿SDGsフェス」(まちの先生見市!)  
(主催：NPO 法人新宿環境活動ネット)

【参考】

- ・NPO 法人新宿環境活動ネット  
(<https://www.sean.jp/>)



特定非営利活動法人 Nature Center Risen (ネイチャーセンターリセン) 東京都

地域特別貢献賞 (事業者部門)

**表彰理由：理事長他が環境カウンセラーとして活動。多年、カンボジアの復興支援にあたってきた。特に、カンボジア環境省と連携して大気・水質・土壌汚染対策を進めるべく、廃棄物処理の基本的な取組みを推進する環境教育教材を制作。カンボジア環境省職員や全国 25 州の環境職員研修において、環境カウンセラーとして講師も務めた。**

## 1. 団体概要

特定非営利活動法人 Nature Center Risen (ネイチャーセンターリセン；NCR) は、2008 年に設立され、豊かな自然体験と正しい科学的知識を取り入れた実践的環境教育により、身近な自然への愛着と他者への想像力を育み、人と自然の共生、持続可能な社会作りを目指している団体です。

【実践的環境教育とは】国内外において身近な環境に愛着をもつことで環境問題を自分事として捉え、解決のために行動できる人材を育成する教育です。「本物の体験」と「正しい知識」を主軸とし、自然と触れ合うことを中心とする原体験を重視しながら、専門家と連携し、科学・芸術・文学などの領域における自由な感性の発露を導く教育に取り組んでいます。

国内では、小学校の年間の環境教育授業や教員研修、こどもエコクラブ等を通して環境教育・福祉教育支援・人材育成を行っています。途上国では、カンボジアで 10 年以上継続して、教育省と連携した小中学校幼稚園の教員を養成する教員養成大学等の現場への環境教育の導入や、環境省と連携した市民向けの環境意識向上の普及啓発活動、地域の学校支援などに取り組んでいます。

令和 2 年度気候変動アクション環境大臣表彰 (普及・促進部門・緩和分野) 受賞。

## 2. 所属カウンセラー紹介

### 理事長 岩間美代子



特定非営利活動法人 Nature Center Risen 理事長。東京都環境学習・環境教育推進連絡会委員、東京都緑のボランティア活動に関する指導者等育成委員会委員、明星大学外部評価委員等を歴任。

第 2 回 (令和 2 年) 環境カウンセラー環境保全活動表彰「自然共生社会貢献賞」受賞。本件受賞対象となったカンボジアの環境教育支援においては、環境教育のメイン講師のほか、教材の企画、日本人講師のアサイン、支援国との調整等、プロジェクトマネジメント全般等を行った。著書に、「校庭からはじめる環境教育」(教育出版)。

### 職員 宮川皓子



東洋大学法学部卒業、東京大学大学院学術支援職員を経て、東京都市大学大学院環境情報学研究科修士課程修了。特定非営利活動法人 NatureCenter Risen 職員。

本件受賞対象となったカンボジアの環境教育支援においては、環境教育のサブ講師、教材・標本作成、広報、研修企画・調整、ロジスティクス・事務全般を担当した。



### 3. 受賞活動の内容

#### (1) カンボジア環境省との協働

カンボジアは、過去の内戦によって教育が崩壊した歴史があり、ほとんどの大人たちは学校で環境教育を受けてきていません。そこで私たちは、2021年4月からの3年間、カンボジア環境省（MoE）と協働し、地域コミュニティの中心である寺院・ヘルスセンター・学校に対し、絵本などを用いた市民向けの環境教育を広める事業を行いました。まずは私たち環境カウンセラーが、MoE職員や全国25州の各州環境局（PDoE）職員に研修を行い、地域への普及啓発体制を構築しました。そのうえで、モデル6州の寺院の僧侶、ヘルスセンターの医師や看護師、学校の教員らを実際に訪問し、絵本やポスター、環境カードなどの環境教育教材を配布して、PDoE職員が市民に環境意識向上のための普及啓発活動を行う方法を指導しました。私たち環境カウンセラーは、この活動がカンボジアの人々の力で全国に広がり、持続できるよう職員へのフィードバックを行いました。また、教材は、私たち環境カウンセラーの日本での実践的環境教育の経験を基にしながら、カンボジアの熱帯特有の自然環境や生活、伝統文化、歴史などを取り入れて、一般市民が親しみやすくすぐに使用できるものを開発しました。



カンボジア環境省との協働（寺院にて）

#### (2) カンボジアの地方の学校支援

2021年4月から3年間、カンボジア・タケオ州にあるトルムーン小中学校幼稚園の環境教育支援を行いました。同校は老朽化した校舎が使用できず、教育を受けられない子供が多くいたため、最初に校舎の改築やぬかるむ校庭などの教育環境の整備を行いました。学校管理職や保護者、地域の関係者などと連携し、地域コミュニティの核として真に学校に必要な支援を行いました。そのうえで、環境カウンセラーによる教員研修や授業、教材の提供などを行って、幼稚園から中学校までの教員達が、自分たちで環境教育を継続できる体制を構築しました。校庭には落ち葉で堆肥を作るレンガの箱を設け、自分たちで堆肥を作れば農薬や化学肥料への依存を減らせることを学ぶなど、学校と家庭、地域の教育が行き交い、環境教育が継続するような支援を行っています。



カンボジアの地域の楽校支援活動

#### 4. カウンセラーとしての思い

環境問題は、多くの要素が関係するため、自分の利益だけを考えると解決できないと言われています。人も自然の一部であることを感じ、身近な自然への愛着を育むこと、他者に思いを馳せる想像力を育てることが重要です。私たちはこれからも、環境カウンセラーとして、実践的環境教育に取り組んでいきます。

**編集・発行責任者**

環境カウンセラー表彰事務局

特定非営利活動法人 環境カウンセラー全国連合会

代表理事 藤本 晴男

**請負・制作**

特定非営利活動法人 環境カウンセラー全国連合会

〒104-0041 東京都中央区新富 1-15-14 相互新富ビル 307

TEL:03-6280-5321 FAX:03-6701-7382

Eメール [jimukyoku@kankyo-counselor.or.jp](mailto:jimukyoku@kankyo-counselor.or.jp)